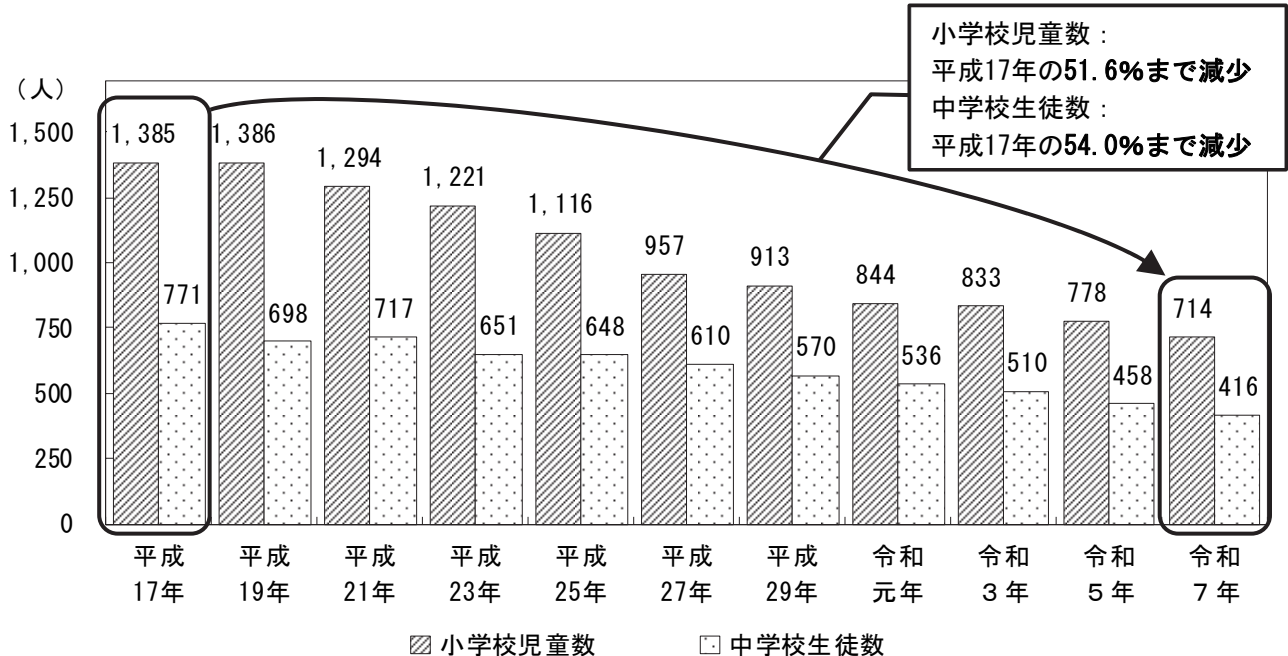


揖斐川町の学校教育の現状

- ◆揖斐川町の児童生徒数は減少を続けており、平成17年から令和7年までの20年間で児童数、生徒数ともに半数近くに減少しています（図表1）。

図表1 児童生徒数の推移



時点：各年5月1日現在

- ◆小学校区別の出生数を見ると、いずれの小学校区も減少傾向にあり、昨年度の出生数は48人となっています。今後転出入により多少の増減は考えられるものの、令和13年度に新たに小学校に入学する新1年生は、町全体で50人程度となると見込まれます（図表2）。

図表2 小学校区別出生数の推移

単位：人

地 区	0歳 令和6年度 生まれ	1歳 令和5年度 生まれ	2歳 令和4年度 生まれ	3歳 令和3年度 生まれ	4歳 令和2年度 生まれ	5歳 令和元年度 生まれ	合計	進学する 中学校
揖斐小校区	6	10	12	10	16	13	67	揖斐川 中学校
清水小校区	5	7	10	6	11	8	47	
小島小校区	11	18	16	17	25	18	105	
脛永地区 (養基小校区)	5	3	6	10	10	15	49	
大和小校区	10	11	9	8	14	13	65	北和 中学校
北方小校区	2	4	10	10	10	12	48	
谷汲小校区	9	4	11	10	9	10	53	谷汲 中学校
合 計	48	57	74	71	95	89	434	

時点：令和7年3月31日現在

◆小学校ではすべての学校において全学年 1 クラスの単学級編制となっており、さらに複式学級（2つ以上の異なる学年を1つのクラスに編制する学級）となっている学年もあります。

また、中学校では、1 学年 1 クラスとなっている学校もあります（図表 3）。

◆国は、望ましい学級数の考え方として、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するために、1 学年 2 クラス以上（小学校：1つの学校に12クラス以上、中学校：1つの学校に6クラス以上）あることが望ましいとしています。

さらに、中学校において免許外教科担任をなくし、すべての授業で教科担任による学習指導を行うためには、少なくとも1 学年 3 クラス（1つの学校に9クラス以上）が望ましいとしています。（文部科学省：「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（平成27年1月））

図表 3 学校・学年別児童生徒数

【小学校】

単位：学級数はクラス、その他は人

小学校名	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計	学級数※	進学する中学校
揖斐小学校	12	17	21	24	17	26	117	8	揖斐川中学校
清水小学校	12	5	10	12	11	7	57	5	
小島小学校	36	19	26	28	28	36	173	8	
養基小学校（脛永地区）	9	14	14	17	16	16	86	9	
大和小学校	12	14	21	17	21	20	105	7	北和中学校
北方小学校	8	8	14	18	18	17	83	7	
谷汲小学校	13	21	16	11	20	12	93	7	谷汲中学校
合 計	102	98	122	127	131	134	714		
養基小学校（全校生徒）	21	30	27	34	33	31	176		

※特別支援学級を含む。

【中学校】

単位：学級数はクラス、その他は人

中学校名	1 年生	2 年生	3 年生	合計	学級数
揖斐川中学校	77	83	88	248	11
北和中学校	37	43	43	123	7
谷汲中学校	17	18	10	45	3
合 計	131	144	141	416	

時点：令和 7 年 5 月 1 日現在